

編集後記

◆ 先月半ば、関東地方には台風13号が襲来しましたが、そのあとは台風一過、下旬には暑さもやわらぎ、比較的のびやかな日々が続きました。毎年恒例となりました地質標本館の夏の行事も、8月23日の「化石クリーニング」には200名以上の方が参加され、翌日の「地球何でも相談」には30件以上の相談が持ち込まれ、おかげさまで大盛況のうちに無事終了しました。

◆ 8月末からひとしきり話題となったのが、“タマちゃん”ことアゴヒゲアザラシ。北極海あたりに生息しているはずなのに、どういうわけか東京湾の奥深く多摩川に出没。いったんは姿を消しましたが、ふたたび鶴見川に現れ、子供達のアイドルになりました。かわいいことは確かですが、これも異常気象のひとつの現れかもしれません。

◆ 甲子園で開かれた今年の夏の全国高校野球大会も、高知の明德義塾が7-2で和歌山の智弁和歌山を破って優勝しました。どちらも夏暑い地方の高校です。以前から不思議に思っているのですが、夏の炎天下の長時間ゲームを、なぜわざわざ甲子園でやるのでしょうか？（おまえの知ったことかと言う声が聞こえそうですが）これだけ交通機関と科学の発達した世の中、将来ある高校生達の健康管理を考えれば、「もっと涼しい地方でやるべきだ」、「クーラのきいたドーム球場でやったらどうか」、「いやいっそのこと開催地を地方持ち回りにしたらどうか」とか、

そんな声がまったく聞こえてこないのが不思議です。

◆ さて、今月は「アジア地熱研究その1」と題して、インドネシアの地熱開発プロジェクトを扱った特集号です。「心躍るインドネシア遠隔離島地熱プロジェクトの5年間を顧みて」は、このプロジェクトの立ち上げ、現地での調査経過、そして成果と国際会議の紹介、「村に明かりを灯す夢；フローレンス島の5年間」は、現地調査を中心にまとめたエッセイ風の記事、現地で直面した戸惑いや悩み、そして困難を一つ一つ解決するプロセスが達意の文章で描かれています。その根っこには、現地に住む人々へのあたたかい筆者の視線があることがよく分かります。「インドネシア・フローレンス島バジャワ地熱地帯地化学調査」は、3つの知見を中心にまとめた“硬派”の記事です。バラエティーに富む3本の記事、それぞれお楽しみ頂けるのではないかと思います。この特集は来月号に続きます。

◆ 久しぶりに登場した「ユニークな地質系博物館」の紹介は「磯部鉱石資料館」。ここには、合同資源産業株式会社社長の故磯部 清氏が収集された約800鉱山の金銀鉱石を中心とするコレクションが展示されているとのこと。日本の金属鉱山がほとんど閉山してしまった現在、このような展示館の存在は非常に貴重です。近くに行く機会があれば、ぜひ見学されてはいかがでしょうか。

(吉田史郎)

地質ニュース編集委員会

委員長：吉田史郎
副委員長：谷田部信郎
委員：磯部一洋・関口春子・中島 隆・安川香澄・飯笹幸吉

連絡先：地質調査総合センター 地質標本館
〒305-8567 茨城県つくば市東1-1-1
Tel. 0298-61-3754
Fax. 0298-61-3569

地質ニュース	第577号	2002年	9月号
	定価¥785(本体価格¥748) ㊦実費		
2002年9月1日	発行		
編集	産業技術総合研究所		
発行人	株式会社 実業公報社		
	代表者 林 光生		
発行所	株式会社 実業公報社		
	東京都千代田区九段北1の7の8 〒102-0073		
	Tel. (03) 3265-0951(代表)		
	Fax. (03) 3265-0952		
	振替口座 00110-6-32466		
	麹町局私書箱第21号		
印刷	株式会社 エアフォルク		

©2002 Geological Survey of Japan

●本誌は東京都の霞ヶ関政府刊行物サービスセンターおよびつくば市の友朋堂書店本店に常備してあります。また、最寄りの書店でも注文できます。